④ 観光農園の運営

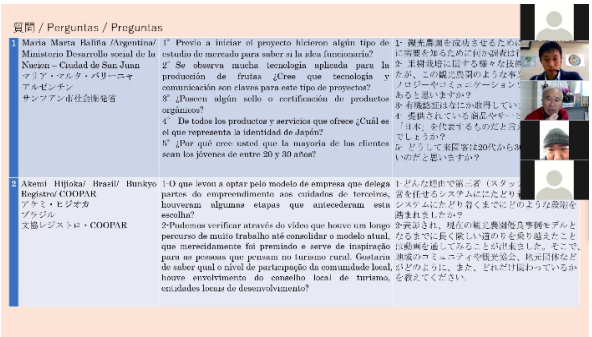
1）基本情報

講師	平田 克明（平田観光農園会長）
期間	令和 3 年 1 月 6 日（水）8:00-9:30
場所	オンライン方式（Zoom）
参加者	日系農業者：合計 33 名（ブラジル 23 名、アルゼンチン 2 名、パラグアイ 5 名、ボリビア 2 名、メキシコ 1 名） 関係機関：合計 3 名（JICA、日本企業）
内容	日本では観光客が農園を訪問し、果物の収穫体験や購入ができる観光農園が盛んである。平田観光農園は広島県三次市に位置し、年間 16 万人の観光客が訪れる日本有数の観光農園であり、講師の平田会長から日本の観光農園の運営や観光客を呼び込む方法について学ぶ。

2）参加者

ブラジル(23)	APPC 農協(4)、APROCAM (1)、Berger bier (1)、Hoçoya 果樹園(1)、Kamino 農場(1)、MFT アグリビジネスコンサルティング(1)、PUC 大学(1)、Takahashi 農場(1)、Terao 農場(1)、サンジョアキン農協(1)、サンフランシスコバレー文化スポーツ協会(2)、ブラジル農協婦人部連合会(1)、プロミソン日伯文化体育協会プロミソン日伯協会(1)、ラーモス文化協会(1)、レジストロ地域農業生産者協同組合(2)、兵庫県ブラジル事務所(1)、南伯ピラールドスル農協(1)、農家(1)
アルゼンチン(2)	AgroArgentinaJapon(1)、社会開発庁(1)
パラグアイ(5)	Parque ito(1)、イグアス日本人会婦人会(1)、イグアス農協(1)、コルメナアスンセーナ農協(1)、パラグアイ日系農協中央会(1)
ボリビア(2)	サンフアン農協(2)
メキシコ(1)	アカコヤグア生産者(1)
関係機関(3)	JICA-ブラジル(1)、JICA アルゼンチン(1)、NTC インターナショナル株式会社(1)

動画教材



セミナーの様子

3）実施概況

- 農園に観光客を呼び込み、収穫体験をさせると共に観光客に直接果物を販売できる観光農園の仕組みに関心を持つ研修生は多かった。実際に取り組んでみたいというという研修生も多く、日本の観光農園の仕組みを学ぶセミナーを組んだ。
- 平田観光農園は広島県三次市にある日本有数の観光農園で、15ヘクタールの広大な土地で様々な品目の果物を作ると共に、動物と触れ合えるスペースやバーベキューガーデン、体験施設、古民家レストランなどがあり、遠方の観光客だけでなく、近隣の住民にとっての憩いの場になっている。雇用創出にも繋がり、地域の活性化に貢献している。2004年には日本農業大賞と農林水産祭天皇杯を受賞した観光農園のパイオニアである。
- さらに平田会長は長野県農業試験場に勤めていたぶどうの研究者であり、世界で初めて抗生物質を使ったぶどうの種なし化に成功した第一人者である。動画教材の中でも、ぶどうやりんごの栽培方法について解説をしてもらった。
- 農園に観光客を呼び込むビジネスモデルもさることながら、若手人材に経営を任せている点にも注目が集まった。さらに海外研修生を積極的に受け入れており、セミナー時にも研修中のボリビ

ア出身の日系人がいて、同農園において学びたいという声も参加者から聞かれた。
- 中南米の果樹生産者の関心も高い観光農園ではあるが、1月初旬という時期のせいか参加人数が多くなく、また観光農園をすでに実践している人、もしくは実践しようと思っている人の参加が期待したほどではなく、年末の宣伝が十分でなかった可能性も考えられる。動画教材はよいものができており、同じテーマで継続して実施していくことを検討してもよいのではと思われる。

4）講師所感

- 動画教材ではぶどうやりんごの果樹園を紹介し、栽培方法に加えて観光客への案内の仕方などを紹介した。さらに観光農園が台風被害によって大ダメージを受けてから、リスク軽減のため年間を通じて果物を収穫できるようにしたこと、6次産業化に積極的に取り組み、加工品の販売や体験施設を充実させたことを紹介した。
- 中南米からも頻繁に研修生を受け入れており、中南米をわりと身近に感じている。一方で参加者からの質問は栽培に関することが多く、運営面に関する質問は少なかった。また機会があるとすれば、観光農園に取り組んでいる参加者が多く参加し、より実践的な意見交換に発展させられるとよいのではと思う。さらに当農園で研修を行った中南米の人を参加させ、話をさせるのも手かもしれない。

5）研修生所感

- コロナ禍でも従業員とともに力を合わせて顧客のニーズを満たす方法があると学んだ。これを機に自身の農場でも訪問客に新しい体験を提供するための何か改善をしていきたい。そしていつかは実際に平田観光農園を訪問してみたい。
- 企業の経営方針、地域との関わり、人を呼び寄せるための工夫についてすごく感心した。日本へ旅行することがあれば必ず訪れたい。
- 平田会長が丁寧に質問の受け答えをする姿をみて、観光農園の信条を垣間見た気がした。こつこつアイデアと研究を重ねて目標へと向かっていく姿勢に感銘を受けた。
- 観光ビジネスの視点からセミナーに参加した。平田観光農園のモデルはブラジルにも導入可能だと考える。このビジネスモデルでは部門ごとの責任者が事業改善のために自由に動けるのが魅力的。近隣の人達に幸せをもたらす素晴らしい事業だと思う。
- 日本で15ヘクタールと言う広い土地で観光農園をやっていることに大変驚いた。今後パラグアイでも6次産業化に取り組む農家が増えていく中､今日のセミナーで学んだことを参考にできればと思っている。
- 農業で生き抜くためには多様化が重要。困難な状況になると人間はより強く、企業魂が発揮される。平田会長や参加者の経験を聞けて本当に良かったと思う。
- 平田会長の話を聞いて、観光農園は地域活性化のボランティア活動ではなく、持続可能なビジネスの展開への戦略を見通した企業として考えるべきだと気が付いた。平田観光農園が長年築き上げたビジネスモデルは長期的な地域活性化につながるモデルと言えるだろう。
- 平田観光農園のセミナーを受けて、観光農園の導入の可能性が見出せたと感じる。今後も観光農園についての研修を望む。
- 観光農園の具体的な実践例やアイデアについて、たくさん知ることができた。また、観光農園をスタートさせ、その後、地域ぐるみで観光事業に取組む実例や、各部門がそれぞれ独立採算制をとるシステムについても興味深かった。自分の地域でも、近年、観光事業への取り組みが徐々に進められているので、個人的に、もしくは自分の所属団体で、何か協力できることを見つけていきたい。
- コロナ禍の困難な状況でも管理しながら運営している姿に感心した。広い土地の管理で、多くの従業員の役割分担をしている人材管理も非常に興味深かった。平田観光農園は家族が自然と触れ合いながら一日中過ごせる夢のような場所で、ブラジルで類似した取組の農園をいくつか訪問したが、平田観光農園のような場所はない。